

No. 921

札幌の秋

—冬季オリンピック迫る—

実りの秋、収穫の秋、しかし、北海道では冷害に泣く農民もいます。実をつけていない稲穂が風に揺れ、手にとる農民の顔も暗い表情。

それにひきかえ、たまねぎは今年は豊作。

オリンピックをひかえ、値くずれしないとあってとり入れの手にも熱が入ります。

オリンピックまであと 150 日と迫った札幌の街は、飾りつけなど準備に大わらは。

食欲の秋にふさわしく公園では、北海道の味、焼トウモロコシの出店もでて、かぐわしいにおいをあたりに巻いています。

真駒内の室内スケート競技場、屋外スピードスケート競技場、90m級大倉山シャンツェ

それぞれの競技場も殆んど出来上がりあとは、本番を待つばかり。

日増しに、オリンピックムードの高まる北海道札幌の秋です。

里孫

東京・町田市にある老人ホーム、清風園には今 100 人以上の寝たきりの老人がいる。身寄りのない老人や、身寄りはあっても面会はおろか、手紙もこない老人が多いこのホームでは、老人の話し相手が一番望まれた。20人の寮母さんがつきっきりの世話をしてくれるおかげで生活の不自由さは感じなくとも、心のさびしさは何としてもいやすことは出来なかった。生活指導員の柏木美和子さんはある雑誌に投書をした。

*里孫になって下さい。反応はあった。

あっと言う間に 40 人を越す里孫が出来た。あれから二年、里孫たちは清風園の訪問を続けた。初めの頃は遠慮がちだった会話も今では実の孫以上にうちとけて、話せるようになった。「訪問日誌」を読む柏木さんは里孫制度の成功をよろこぶと同時に、もっと多くの里孫を作らなくってはと思う。

若い世代の里孫は少ないし、また、なってもすぐやめる。園長の丹羽さんは、

『人間だれしもいつかは老人になるのですから、もっと、老人を理解するように、すべきですね』と若い人たちの老人への無関心を嘆く。

これからもずっと続けてゆきたいと言う里孫グループ。しかし、彼女たちにだけまかせるのは、余りにも荷が重すぎはしないだろうか。

198
382